

## 田辺商工会議所における公立大学構想に対する意見

No.	意見
1	建設業の立場では、短期的には工事の発注が出るのでプラス要因。
2	心配な面もあるが楽しみな面もあるので、ポジティブに捉えていきたい。
3	大学運営自体は計画通りにはいかないと思うが、このまま何もせずに人口減少が進むのであれば、せっかく申し出てくれた構想に乗るのもありではないかと思う。大学が出来ることで相乗効果が生まれ、様々な投資が増えることも期待できる。
4	田辺市の出生者は300人で15年前は600人である。それだけ人口が減少している中、大学が設立されれば1学年144人、全校で576人の生徒が田辺市に住むことになる。半数以上は賃貸住宅を利用し、生活することによる経済効果もあり、親の立場で言えば、田辺で公立大学に通わせる選択肢があることはありがたいと思う。
5	田辺に大学が出来れば、田辺地区の高校生からすれば選択肢が増え、大学生や大学教員の方々が田辺市に住む経済効果もある。AIに特化した学部であれば学生も集まると思う。
6	資金面で予定通りいかなかった場合の計画が示されていない。バッドシナリオを想定して、その対処策が策定できるのであれば設立すべきと思う。
7	約600人が田辺で生活すると生活費だけで年間約7億円の経済効果が見込める。カリキュラムにも魅力的な特徴があるので、全国から学生が集まると思う。地元学生の受け皿だけでなく、全国から学生を田辺市に呼び込める。懸念点は設立時の資金計画が弱い。
8	市民として大学は欲しい。財政面の問題は市で考えてもらいたい。
9	公立大学で1学年144名は十分集まります。赤字が出ても、田辺市の財政を圧迫する程の額ではないと思う。全校576名規模の大学を1つ養える税収は田辺市に十分ある。教育カリキュラムについては変化し続ける社会に対しAI知識を持ちながら、臨機応変に対応することを目指すということで、これからの時代にあったものである。

No.	意見
10	<p>▶人口減少と自治体消滅の現実 我が国全体が急速な人口減少局面に入中、地方都市、とりわけ紀南地域においては「人口減少」ではなく「自治体として存続できるかどうか」そのものが問われる段階に入っている。自治体消滅という言葉が現実味を帯びる今、従来の延長線上にある施策だけでは、この流れを食い止めることは極めて困難であると認識している。</p>
	<p>▶2040年の田辺市のすがたを見据えて 2040年を見据えた時、田辺市が若者を域外へ送り出すだけのまちとなるのか、人材が集い、育ち、定着するまちとなるのか、その分岐点に私たちは今立っている。公立大学の設置は、田辺市の将来像を人材流出型から人材循環・定着型へ転換するための基盤であると考えている。</p>
	<p>▶拡張社会から縮小社会への転換 これまでの日本社会は、人口増加と経済拡大を前提とした拡張社会に適合した社会システムの基で発展してきた。しかし、今後は、人口が縮小し続けることを前提とした社会システムへの転換が不可欠である。その中心に据えるべきものが教育であり、とりわけ高等教育は地域の持続可能性を左右する最重要インフラである。</p>
	<p>▶生き残りの三要素「教育・医療・産業」 地域が持続的に生き残るためには、「教育」「医療」「産業」の三要素が不可欠である。教育は医療人材や産業人材を生み出す起点であり、大学は他の二要素を根本から支える基盤である。</p>
	<p>▶大学がもたらす公教育への好影響 公立大学の設置は高等教育にとどまらず、地域全体の公教育の質を底上げする。教育機会と質が担保されなければ、子どもが小さい段階で和歌山市周辺へ移住する可能性が高まる。大学の存在はその抑止力となる。</p>
	<p>▶他地域から人を呼び込み、定着させる力 特色ある公立大学は他地域から学生を呼び込み、在学中の地域との関わりを通じて、卒業後も田辺市に住み続ける可能性を生み出す。</p>
	<p>▶スタートアップと100億円企業の重要性 経済産業省は、売上高100億円を目指す企業の成長を後押しする「100億円企業宣言」の募集を開始している。これは地域から成長企業を生み出すことの重要性を示す国家的メッセージであり、大学はその基盤となる。</p>
	<p>▶産業界の責務 住み続けられるまちには産業が不可欠であり、大学設置は行政だけでなく産業界自身の未来への投資であると考えている。</p>
	<p>▶100年先を見据えた田辺市の未来 100年先、和歌山県南部の中核都市として、教育・医療・産業が循環し、歴史と文化が次世代へ引き継がれる田辺市の未来を期待する。</p>

No.	意見
11	資金面での計画が甘い。10億のクラウドファンディングについても具体的な企業や金額は確定していない。文理融合と言っているが、理系と文系では生徒一人当たりの国の補助金が100万円違う。文系大学とみなされてしまったら、毎年数億円の赤字を出すことになる。
12	資金面が不安。入学生が集まるかという不安もある。
13	カリキュラムの内容が掴みどころのない点と田辺市民から出てきた話ではなく、田辺地区外の人からの提案という点に不安を感じる。田辺地区に定住して、腰を据えて大学運営に取り組んでもらえるのか疑問。
14	生徒数が減り続ける中で新大学を設立して、何十年も運営することは非常に困難である。それであれば、関西にある有名私立大学の1学部を田辺市に来てもらえるような誘致活動に力を入れるべきである。新大学設立は田辺市の負担が大きすぎる。
15	若者は都会へ出ていきたいと考えている。田辺市で学生を集めることは大変。
16	1月常議員会において財団の説明会に出席しましたが、良い話ばかりで信用出来ない。大学の維持が少子化の中で難しいと思う。
17	1月常議員会での財団の説明を聞いて、気になるところがあった。公立大学なので安い学費で大学に行けることがセールスポイントであると強調する一方で、3年次には海外や全国でフィールドワークを行うと言っていた。その費用は当然親の負担になるので、家庭環境や親の収入によって教育格差が生まれるのではないかと。社会情報科学部というところも具体性に乏しく、教育カリキュラムの根幹があやふやなものを感じる。私は高校生とのワークショップに数回参加しているが、専門学校が欲しいという高校生の要望は本当に多い。地元で専門的な技術を身に付けたいと言っていた。大学を作る側の希望ではなく、田辺地区の高校生の意見を聞いて、田辺地区の現状を勉強してから学校を作ってほしい。
18	10年後には更に少子高齢化が進むと思う。その中で576名の生徒を集めることは難しい。
19	若い人が増える事は良いことだが、一方で予算面での問題もある。
20	建設業界は生コンや建築資材が売れて良い面もあるが、大学の経営面の難しさや地元にもたらすプラス効果についても疑問がある。
21	資金面の問題やAIを学んだ学生に就職先があるのかという懸念がある。
22	田辺市の税金が設立時にどれ位使われ、赤字の補填にどれ位必要なのかを聞かないと判断できない。
23	説明を聞くと、リスクヘッジが出来ておらず、理想を追いかけているように思う。財政が赤字となった時に市の負担が増え続けることに不安を感じる。想定外の状況や赤字になった場合の具体的な準備を示して欲しい。